

·號五十三百八千四

社説

金貨本位論(六)

○金貨本位談（六）

金井延氏

氏が大蔵省參事官としては意見を述べるみど能はさく云ふ所は左の如し

此頃頻に金貨本位論が起つて來まして新聞紙に現れて居る諸説を見るに、第一に間違つて居りはせんかと思ふのは、金貨本位と云ふものは貨幣制度中最良の者であると絶對的に認めて居る一事です、即ち貨幣制度の理想は金貨本位であると考へて居るのは間違ひの甚しきものである。今や歐米の重なる國々は金貨本位を行つて居るが故に、其國々が何時までも永久に金貨本位制度を維持するものであると云ふやうな考を懷いて、さうして其前提から割出して議論をして居るやうに見える、處が私の考ぢやさうでないと思ふ、金貨本位も成程好い所もあるけれども併しながら之を以て永久に——萬世不易に好い制度である、即ち貨幣制度の理想であると思つて居るは不可んど思ふ、果して金貨本位を以て絶對的に萬世不易の既制度なりとすれば、世界の範囲の國、少なくとも勢力ある國々が皆金貨本位を維持しなくちやアならん。又金貨本位に對して難を讀いたり反對する學者若くは實際家の現るゝ道理はなれど思ふです。

我が反對論者が續々現はれて、此頃では歐米に於ては復本位論が勢力を得て來て、何うしても極の極度には復本位でなければならんと云ふ論が盛んになつて、經濟學者と云はるもののは大概復本位論に傾いて居る、尤も實際家を以て自から任ずる者の中には一時復本位なんぞ云ふとは妄想である、到底行はるゝものでないと言つて居るが、併し此頃では實際家一派々降伏して來て、大陸復本位に賛成する者が殖えて來た、英國の如き何處までも金貨本位を維持せんとする國柄に於てすら、復本位に左袒する實際家が殖えて來たのです、年々歲々殖えて來るのであります、是に由つて之を觀れば金貨本位は全く缺點のない萬世不易の既制度とは謂へぬ歟であらうと思ふ。

次に世界各國舉つて金貨本位を採用するふとなりたらんには、今日の金の現仕高と生産額の模様に構ふるに、金だけでは到底不足を告ぐるに相違ない、論者には商業上信用取引が益々行はれて来るゆゑ金貨のみに止むるも實害ない、足らんと云ふみどはないと云ふ説をなす者もあるが、如何に信用取引が發達するも、發達すればする程それと同時に事業も發達すれば取引は益々になる、左すれば商取引と云ふものは到底信用取引のみで済して行く譯に行かぬから、如何に信用取引が發達するも矢張硬貨を要するは明白である、其硬貨を採るとすれば、其需用を充たすだけの金なきを奈何せん、即ち金が總ての需用を充たすに足らんと云ふ點と云ふ得失の存する所は明白なり軍事外交の権威の外は何事も打明けて國民に知らしめ相共に實行を期するふと肝要なる可し取て當局者に報告するものなり

より見るや、金貨本位制度は到底行ひ難い事と思ふ。無理に之を行はんとすれば、勢ひ金貨が他の物に對して勝負せざるを得ん。金貨金塊が無制限にせんぐる所である、經濟社會に非常な害を來して産業の萎靡振はざるに至るは自然の結果である。從つて労働者間に紛糾起つて遙には同盟罷工を起すやうになる、丁度二三年前に英吉利が非常に困難したやうな所謂不景氣の有様に立到る。さう云ふ事どがありますから金だけやると云ふ事どは出來ない話で、無理にやれば却て經濟社會の活氣を失はしむるに至る。

尤も其金の產出が、豫期すべからざる意外の事から案外に植えて、貨幣并に其他金に對する需用を充たすに充分なれば左る思もありますまいが、先づ今日の處では、左鞋金の產出が殖えやうとも思はれん、トランスヴァールなんぞ云ふ處から出て来るから幾分か植えておるに相違ないが、さう澤山植えるとは思はれんのです。若し金が非常に植えるとすれば銀の下る氣遣ひもないから問題も起らぬ道理。

現今の有様では到底金の多分に產出せらるゝ見込はない、左すれば金だけでは足りんから勢ひ金銀兩貨を用ひなければならんと云ふ事となる、兩方を用ふるど物價の變動が甚しいと云ふ事となれば、所謂補助作用とか或は賠償作用とか換本位作用に依つて物價の非常に上つたり下つたりする激變を觀ぐみ事が出来る。出来るからして極端合意く行くと思ふ、若しも金なり銀なりだけで十分に經濟社會の取引の媒介をして行く事が出來ると云ふならば、則ち世界の國の金貨制度になつて丁へば宜いが夫れは出來ん、出來ぬとすれば双方を用ふるが當然である、それで物價の變動如何と謂へば寧ろ一を用ふるより少ない、先づ貨幣の更制度貨幣制度の理想は金本位に在らずして却て換本位に在りと思ふ。

（未完）

ノツフ公の後を襲ふて露  
ノヴィーフ伯は千八百八十

能はすより乍ら露國に於て給與を得べしとなりし幸に帝は此二性を務大臣として能く其の能に巧なれど沈着大に恵は性質温和にし幸に帝は此二性を得べしとなりたる如く海軍々醫部軍醫二名少軍醫候補科大學卒業生及外國は一般の醫術専業免職するのみならず大科及衛生學の九科、科の四科、外國學（斯科）は學說には物理、化學の試驗を以て予するが故に、高等學校醫學部本官に任命せらるゝ待遇と受け一日八十回鑑し其餘は一日中の事なりと云ふ

○マコフ反徒の急報去る十六日西班西班牙軍は他の諸國競りたる二千のマニチ之を取り又ビガーネルトン氏は総督州を爲したる際、合併を先づ第一に米加双方交通の便を運びる所ありしが尚ほ後なる爲め加奈陀政府の

○加奈陀、米國にて米國合併說流行る所ありしが尚ほ後地の廣きのみにして恰も小國なれば南方日本より米國の大都會盛を計るは地勢より當らしむるみどに決然と云ふ

○佛國の人口増なるは著しい事實はあるの致と突出し人口の増加は子供三人妻と夫に於て給與